2章 方程式と不等式

練習問題 2-A

1. (1)
$$2x - 6x < 8 - 3$$
 $-4x < 5$ $x > -\frac{5}{4}$

(2)両辺を6倍して

$$24 + 4x \ge 18x + 3$$
$$4x - 18x \ge 3 - 24$$
$$-14x \ge -21$$
$$x \le \frac{3}{2}$$

(3)
$$5x-2x^2+3>0$$

$$2x^2-5x-3<0$$

$$(2x+1)(x-3)<0$$
 よって , $-\frac{1}{2}< x<3$

(4)
$$(x-3)(x+2) \ge 0$$

よって, $x \le -2$, $3 \le x$

2. 横の長さを x cm とすると , 縦の長さは (12-x) cm となるので

 $x(12-x) \leq 20$ ただし, 0 < x < 12

これを解くと,
$$12x-x^2-20 \le 0$$
 $x^2-12x+20 \ge 0$ $(x-10)(x-2) \ge 0$ $x \le 2$, $10 \le 10$ $0 < x < 12$ より,求める範囲は $0 < x \le 2$, $10 \le x < 12$

3. (1)
$$P(x) = x^3 - 2x^2 - x + 2$$
 とおく .
$$P(1) = 0$$
 より
$$P(x) = (x-1)(x^2 - x - 2)$$

$$= (x-1)(x-2)(x+1)$$

\overline{x}		-1		1		2	
x+1	_	0	+	+	+	+	+
x-1	_	_	_	0	+	+	+
x-2	_	_	_	_	_	0	+
P(x)	_	0	+	0	_	0	+

表より $-1 \le x \le 1$, $2 \le x$

(2)
$$P(x) = 2x^3 + 3x^2 - 9x - 10$$
 とおく $P(-1) = 0$ より
$$P(x) = (x+1)(2x^2 + x - 10)$$

$$= (x+1)(x-2)(2x+5)$$

x		$-\frac{5}{2}$		-1		2	
2x + 5	_	0	+	+	+	+	+
x-1	_	_	_	0	+	+	+
x-2	_	_	_	_	_	0	+
P(x)	_	0	+	0	_	0	+

表より
$$x<-rac{5}{2}, \;\; -1 < x < 2$$

4. (1) 左辺 - 右辺 =
$$\frac{a^2 + b^2}{2} - \left(\frac{a+b}{2}\right)^2$$

$$= \frac{2a^2 + 2b^2 - (a^2 + 2ab + b^2)}{4}$$

$$= \frac{a^2 - 2ab + b^2}{4}$$

$$= \frac{(a-b)^2}{4} \ge 0$$

よって, $\frac{a^2+b^2}{2} \ge \left(\frac{a+b}{2}\right)^2$ 等号が成り立つのは,a-b=0 すなわち a=b のとき

(2) 左辺 - 右辺 =
$$a^3 + b^3 - (a^2b + ab^2)$$

= $(a+b)(a^2 - ab + b^2) - ab(a+b)$
= $(a+b)(a^2 - ab + b^2 - ab)$
= $(a+b)(a^2 - 2ab + b^2)$
= $(a+b)(a-b)^2$
ここで, $a>0$, $b>0$ より, $a+b>0$
また, $(a-b)^2 \ge 0$ であるから,
 $(a+b)(a-b)^2 \ge 0$
よって, $a^3 + b^3 \ge a^2b + ab^2$
等号が成り立つのは, $a-b=0$ すなわち $a=b$

5. (1) 逆 : xy=0 ならば,x=0 である. 偽 $(反例 \quad x=1,\;y=0)$ 対偶: $xy \ne 0$ ならば, $x \ne 0$ である. 真

(2)

逆
$$x=1$$
 または $x=-1$ ならば , $x^2=1$ である. 真

対偶 x
eq 1 かつ x
eq -1 ならば , $x^2
eq 1$ である. 真

6. (1)
$$x = 1$$
 $(x-1)(x+3) = 0$

よって
$$x=1 \implies (x-1)(x+3)=0$$
 であるから , 十分条件である .
$$\longleftarrow \mathfrak{O} \mathbb{D} \emptyset \text{ id , } x=-3$$

(2)
$$|a| = 2$$
 $a^2 = 4$

$$|a| = 2 \iff a^2 = 4$$

であるから,必要十分条件である.

いずれも $a=\pm 2$ という条件である.

(3)
$$AB = CD$$
 平行四辺形

よって

 $AB = CD \iff$ 平行四辺形 であるから,必要条件である.

→ の反例は ,
$$\stackrel{A}{\underset{B}{\swarrow}}$$
 のような場合

練習問題 2-B

- 1. (1)3式を,上から①,②,③とする.
 - ①を解くと,

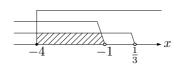
$$x \ge -4$$

②を解くと,

$$x < \frac{1}{3}$$

③を解くと,

$$x < -1$$



よって ,
$$-4 \le x < -1$$

- (2)2式を,上から①,②とする.
 - ①を解くと,

$$(x-3)(x+1) \le 0$$

$$-1 \le x \le 3$$

②を解くと,



よって, $2 < x \leq 3$

2. (1) 両辺に $(x-2)^2$ をかけると

$$(-x+4)(x-2) > 0$$

$$-(x-4)(x-2) > 0$$

$$(x-4)(x-2) < 0$$

よって,2 < x < 4

(2) 両辺に $(x-2)^2$ をかけると

$$(x-1)(x-2) \le 3(x-2)^2$$

$$x^2 - 3x + 2 \le 3(x^2 - 4x + 4)$$

$$x^2 - 3x + 2 \le 3x^2 - 12x + 12$$

$$-2x^2 + 9x - 10 \le 0$$

$$2x^2 - 9x + 10 \ge 0$$

$$(x-2)(2x-5) \ge 0$$

よって,
$$x \le 2, \frac{5}{2} \le x$$

x = 2 であるから , $x < 2, \; rac{5}{2} \le x$

3. (1) a > 0, b > 0, c > 0 & $\frac{1}{a} > 0$, $\frac{1}{b} > 0$,

 $\dfrac{1}{c}>0$ なので,相加平均と相乗平均の大小関係より

$$a + \frac{1}{b} \ge 2\sqrt{\frac{a}{b}}$$

$$b + \frac{1}{c} \ge 2\sqrt{\frac{b}{c}}$$

$$c + \frac{1}{a} \ge 2\sqrt{\frac{c}{a}}$$

3式の辺々を掛け合わせると

$$\left(a + \frac{1}{b}\right)\left(b + \frac{1}{c}\right)\left(c + \frac{1}{a}\right) \ge 2^3\sqrt{\frac{a}{b} \cdot \frac{b}{c} \cdot \frac{c}{a}}$$

= 8

$$\left(a + \frac{1}{b}\right)\left(b + \frac{1}{c}\right)\left(c + \frac{1}{a}\right) \ge 8$$

等号が成り立つのは , $a=\frac{1}{b}$, $b=\frac{1}{c}$, $c=\frac{1}{a}$ のときであるから

$$\begin{cases} ab = 1 & \cdots \\ bc = 1 & \cdots \\ ca = 1 & \cdots \end{cases}$$

①,②より

ab=1=bc すなわち , ab=bc

 $b \neq 0$ であるから , a = c

③に代入して

$$a^{2} = 1$$

a > 0 より, a = 1

これを①に代入して,b=1

よって , 等号が成り立つのは a=b=c=1 のとき

(2) a>0 ,b>0 より $\dfrac{1}{a}>0$, $\dfrac{1}{b}>0$ なので ,相 加平均と相乗平均の大小関係より

$$rac{1}{a}+rac{1}{b}\geq 2\sqrt{rac{1}{a}\cdotrac{1}{b}}=2\sqrt{rac{1}{ab}}=rac{2}{\sqrt{ab}}$$
すなわち , $rac{1}{a}+rac{1}{b}\geqrac{2}{\sqrt{ab}}$

両辺に
$$\dfrac{\sqrt{ab}}{\dfrac{1}{a}+\dfrac{1}{b}}$$
 (>0) をかけると
$$\sqrt{ab} \geq \dfrac{2}{\dfrac{1}{a}+\dfrac{1}{b}}$$

等号が成り立つのは , $\frac{1}{a}=\frac{1}{b}$ すなわち a=b のとき

4. (1)
$$(2+a^2) - (2a-a^2) = 2+a^2-2a+a^2$$

 $= 2a^2-2a+2$
 $= 2(a^2-a)+2$
 $= 2\left(a-\frac{1}{2}\right)^2 - \frac{1}{2}+2$
 $= 2\left(a-\frac{1}{2}\right)^2 + \frac{3}{2} > 0$

よって

$$(2+a^2) - (2a-a^2) > 0$$

すなわち, $2 + a^2 > 2a - a^2$

(2) 左辺を因数分解すると

5. (1)偽 (反例 a=1, b=i)

逆:a ,b が複素数で ,a=0 かつ b=0 ならば

 $a^2 + b^2 = 0$ である. 真

対偶:a ,b が複素数で,a
eq 0 または b
eq 0 なら

ば $a^2+b^2 \neq 0$ である. 偽

(反例 a=1, b=i)

(2)真

逆:x-y=-2 ならば x=1 かつ y=3 であ

る. 偽 (反例 x=2, y=4)

対偶: $x-y \neq -2$ ならば $x \neq 1$ または $y \neq 3$ で

ある. 真

6. (1)この命題の対偶は

「x , y が実数のとき , $x \le 0$ かつ $y \le 0$ ならば $x+y \le 0$ である .」

となるので,これを証明する.

 $x \leq 0$ かつ $y \leq 0$ であるから,2 式の辺々を加えると

 $x+y \leq 0$ が成り立つ.

対偶が真であることが証明できたので,もと の命題も真である.

(2)この命題の対偶は

「n が整数で , n が 3 の倍数でないならば n^2 も 3 の倍数ではない .」

となるので、これを証明する、

n が 3 の倍数ではないので , 整数 m を用いて n=3m+1 または , n=3m+2

と表すことができる.

i)
$$n = 3m + 1$$
 のとき
$$n^2 = (3m + 1)^2$$

$$= 9m^2 + 6m + 1$$

$$= 3(3m^2 + 2m) + 1$$

よって,
$$n^2$$
 は 3 の倍数ではない.
ii) $n=3m+2$ のとき

$$n = 3m + 2$$
 のとき
 $n^2 = (3m + 2)^2$
 $= 9m^2 + 12m + 4$
 $= 3(3m^2 + 4m + 1) + 1$

よって, n^2 は3の倍数ではない.

i) , ii) より , 対偶が真であることが証明できたので , もとの命題も真である .